

平成29年 6月26日

一般社団法人
北海道認知症グループホーム協会
会員 各位

一般社団法人
北海道認知症グループホーム協会
平成29年度実践研究大会 in 札幌
実行委員長 加藤 浩志

平成29年度実践研究大会 in 札幌 事例(発表者)の募集

拝啓 初夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび私たちの日々の実践を多くの皆様と共有する場を設けるため「原点回帰、今こそみつめようグループホーム～明るい未来に繋げるために～」というテーマのもと、実践研究大会を企画致しました。つきましては事例発表頂ける方を下記の要領で募集したいと思いますので会員の皆様におかれましては大変ご多忙の中とは存じますが、大会の趣旨をご理解頂き、ご応募頂けたら幸いに存じます。皆様からのお申し込み、心よりお待ちしております。

敬具

記

- 事例発表テーマ：
1. 人材育成
 2. ケアの実践（ターミナルケア、BPSD、虐待防止の取り組み等）
 3. 地域共生
 4. 家族支援

発表抄録応募：（発表申込者→所属ブロック事務局へメールにて提出）

ご不明な点につきましてはメール又はTELにて所属ブロック事務局またはブロック会長までお問合せください。

提出先：所属ブロック事務局

募集数：12事例（1ブロック最低1事例提出にご協力願います）

1事例につき質疑応答込みで20分

事例は複数でも可。応募多数の場合には大会実行委員会で選考します。

抄録原稿フォーマット：日本認知症ケア学会の発表ルールを準用致しますので、抄録原稿フォーマットを道GH協会ホームページ（7月上旬に掲載予定）よりダウンロード、若しくは所属ブロック事務局からデータを取り寄せてください。

（字数は 1,380 字以内）

応募期間：2017年 7月 1日 ～ 8月18日迄とします

開催日：2017年10月 2日（月）

開催場所：ロイトン札幌（札幌市中央区北1条西11丁目）

発表形式：口頭発表（パワーポイント、イラストなどの使用も可能です）

以上

事例発表「抄録」の作成について

※テーマ（タイトル）を決める

一目見て発表がどんな内容なのかイメージできるように、抄録の内容を明確に表現する。
独自性を大切に。同様にサブテーマもつける。

※共同研究者の名前：発表する発表内容に直接的に関わった方

- ① 目的：今回そのテーマをなぜ考えたのか？動機は何か、取り上げようとすることの意義、その現状や背景などを含めてまとめる。
- ② 方法：事例の紹介、評価、分析の方法など誰が見ても聞いてもわかるように事実を具体的に示す。

Who （誰が？研究した人）

Whom （誰に？対象者）

What （何を？）

When （いつ？）

Where （どこで？）

How （どんな方法で？）

※「方法」の段階で結果は書かない

- ③ 結果：どうなった？回数の変化などは、取り組む前と後でどうなったかを数字等で示す。
「方法」で述べた経緯、評価に関しては具体的な数値やその変化を推論は書かず、事実を伝える。

- ④ 考察（結論）：この事例を通して（結果を踏まえて）新たにわかったこと、問題点、今後の方向性などについて客観的に書く。⇒ 目的との関連を見失わない。

※個人的な思いや感想は避けて科学的に表現。

「…と感じた」ではなく、「…と考えられる」など

語尾が「です」「ます」にならないよう、また混ざらないよう注意する。

以上をご参考に抄録作成へのご協力をお願い致します。

なお、抄録の様式（フォーマット）は、北海道認知症グループホーム協会ホームページ

(<http://www.h-gh.net/>) 及び各ブロック事務局にデータがございますので、ダウン

ロード等にてご使用ください。（協会ホームページには7月上旬に書式データ掲載予定です）